

# CASBEE® - 建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小倉駅南口東地区第一種市街地再開発事業	階数	B1F・27F・PH2F
建設地	福岡県北九州市小倉北区京町3丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,870 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、集合住宅、工場、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2016年7月4日
敷地面積	4,052 m <sup>2</sup>	作成者	川建康・長澤努
建築面積	3,493 m <sup>2</sup>	確認日	2016年7月14日
延床面積	40,211 m <sup>2</sup>	確認者	川建康



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 91%  
 ③上記+②以外の 91%  
 ④上記+ 91%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・都心にふさわしい良好な都市環境を創造する。		<b>その他</b> 当敷地は歴史的に江戸時代の護岸跡があるため、埋蔵文化財の発掘調査を行うこととなっている。これもCASBEEでは評価し難いが環境配慮のひとつの取組と考える。
<b>Q1 室内環境</b> ・快適な室内環境を構築する。 ・シックハウス対応として内装仕上材は、ほぼ全てにF☆☆☆☆を使用する。	<b>Q2 サービス性能</b> ・機能が高く、快適で、維持管理も行いやすい施設とする。 ・高層分譲集合住宅の地震への対応として免震構造を採用する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・外構や外装に最大限緑化を取り入れ、敷地内外の室外環境に貢献する。
<b>LR1 エネルギー</b> ・LOW-Eガラスの採用などにより熱負荷の抑制に努めつつ、また、自然換気を行えるサッシを組み込むなど自然エネルギーの積極的利用も図る。 ・共用部の照明は、スケジュールタイマーや人感センサー対応を行う。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・省水型機器の採用など、資源の節約に貢献できる施設づくりに務める。 ・再生資源や再生材の積極的利用を図った。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼機器を使用しないことで大気汚染防止を図る、などにより敷地外環境への配慮を行う。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される